

浮島処理センター

視 察 資 料 〔 環 境 委 員 会 資 料 〕

- 資料1 令和元年度 ごみ減量未来へつなげるエコ暮らしの推進
ダイジェスト
- 資料2 浮島処理センター 快適な生活環境の創造を目指して

令和2年1月16日

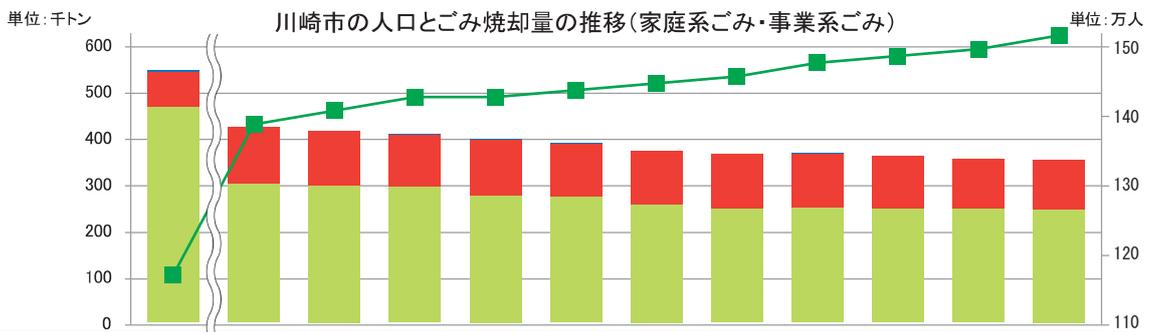
環 境 局

地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざして

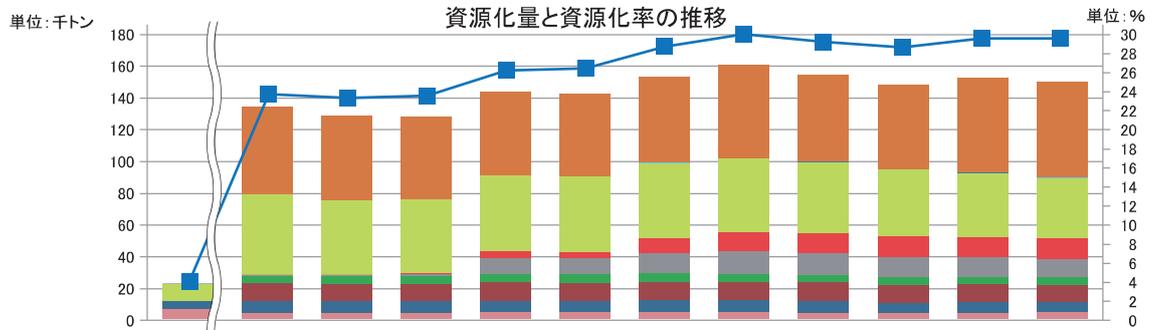
川崎市では、地球環境にやさしい持続可能なまちの実現をめざし、平成28年3月に川崎市一般廃棄物処理基本計画（ごみ減量 未来へつなげる エコ暮らしプラン）を策定しました。基本計画では、循環型社会の構築はもとより、循環を基調とした生活の質の高さと環境の保全を両立した環境配慮型の“エコ暮らし”なライフスタイルへの転換を図り、さらに低炭素社会や自然共生社会とも統合された持続可能な都市を目指していきます。

また、本計画の実行計画に位置する「第1期行動計画」の計画期間終了を受け、平成30年3月に「第2期行動計画」を策定しました。第2期行動計画では、ごみの減量化・資源化に向けた取組の推進と合わせて、超高齢社会の到来や大規模災害への対応など、社会状況の変化に伴い多様化する市民ニーズに対しても、取り組んでいきます。

ごみ処理・リサイクルに関するデータ ①



項目	平成2年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
焼却ごみ全体(トン)	554,371	428,225	420,517	412,712	401,893	392,926	377,363	370,849	371,270	366,016	359,169	356,233
家庭系焼却ごみ	473,385	304,679	300,648	296,891	279,002	275,965	259,209	249,626	251,273	249,303	249,632	248,295
事業系焼却ごみ	77,188	124,018	119,530	115,578	122,745	116,756	118,017	120,819	119,547	116,333	109,208	107,616
道路清掃ごみ	3,798	638	586	515	441	450	424	404	450	380	329	322
人口(万人) ※1	117	139	141	143	143	144	145	146	148	149	150	152

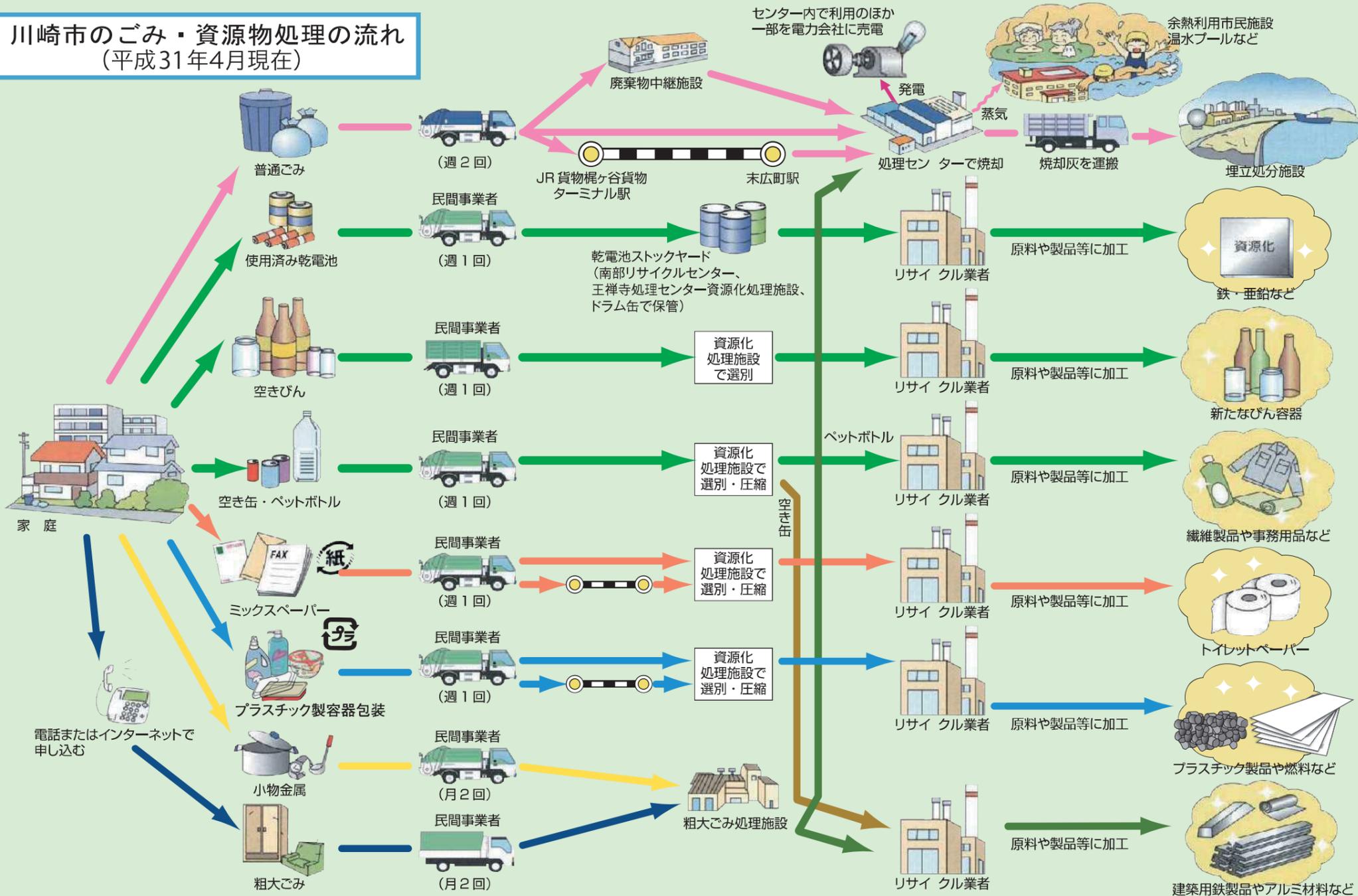


項目	平成2年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
資源化量全体(トン) ※2	22,352	134,725	129,351	128,664	144,685	143,054	154,299	161,541	155,552	148,983	153,125	150,678
粗大・小物金属資源化(トン)	6,123	3,730	3,732	3,785	4,004	3,938	3,814	3,860	3,769	3,805	3,795	4,119
空き缶(トン)	4,817	7,543	7,420	7,327	7,312	7,304	7,859	7,722	7,046	6,270	6,845	6,750
空きびん(トン)	12	11,013	10,930	10,969	11,577	11,653	11,921	11,960	12,225	11,293	11,125	10,580
ペットボトル(トン)	0	4,586	4,655	4,872	5,167	5,103	5,168	5,076	5,042	4,991	4,751	4,846
ミックスペーパー(トン)	0	1,157	1,172	1,865	10,618	10,662	13,306	14,063	13,618	13,010	12,530	11,897
プラスチック製容器包装(トン)	0	0	0	269	3,896	3,811	9,008	12,395	12,587	12,753	12,686	12,723
資源集団回収(トン)	11,400	50,804	47,474	46,684	48,260	47,875	47,999	46,654	45,048	42,773	40,811	38,642
小型家電(トン)	0	0	0	0	0	0	2	79	199	57	24	27
使用済み乾電池(トン) ※6	0	0	0	0	0	0	0	268	255	287	275	293
その他資源物(トン) ※3	0	419	433	425	402	369	395	221	232	285	287	265
事業系資源物(トン)	0	55,473	53,535	52,468	53,449	52,339	54,827	59,243	55,531	53,459	59,996	60,536
資源化率(%)	4%	24%	24%	24%	26%	27%	29%	30%	30%	29%	30%	30%
総排出量(トン) ※4	576,785	563,199	550,115	541,648	546,873	536,225	531,949	532,390	526,822	514,999	512,294	506,911
1人1日当たりごみ排出量(g) ※5	1,346	1,110	1,069	1,041	1,044	1,021	1,006	998	976	947	933	916

※1 人口は、各年度の10月1日現在の人口に基づきます。
 ※2 資源化量とは、家庭系資源物及び事業系資源物を含めて算出したものです。
 ※3 その他資源物とは、自主回収、古布及び蛍光管の合計値です。(蛍光管は、平成28年から除きます)
 ※4 総排出量=焼却ごみ+資源化量
 ※5 1人1日当たりごみ排出量とは、一般家庭(家庭系焼却ごみ・家庭系資源物)、事業者(事業系焼却ごみ・事業系資源物(事業活動に伴い出される資源物))、その他(道路清掃ごみ)の合計を人口及び年間日数(うるう年の場合は366日)で除したものです。

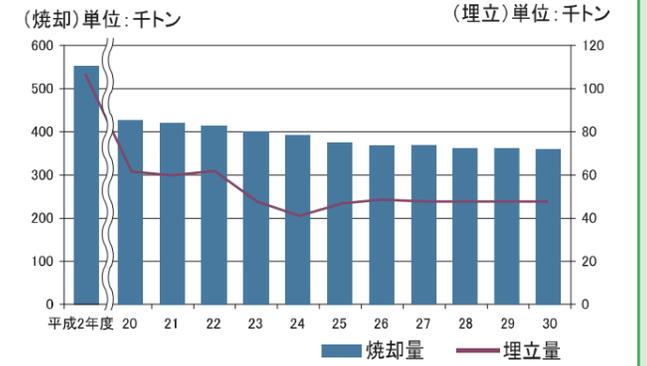
※6 使用済み乾電池を安定的にリサイクルすることができるようになったため、平成26年度から資源化量の内訳へ記載することとなりました。
 ※7 蛍光管は、平成28年から割らない収集を開始しました。なお、平成27年までの蛍光管は、その他資源物※3に含まれています。
 ※8 基準年度の平成2年度は本市が「ごみ非常事態宣言」を宣言した年です。

川崎市のごみ・資源物処理の流れ (平成31年4月現在)



ごみ処理・リサイクルに関するデータ ②

焼却量と埋立量の推移

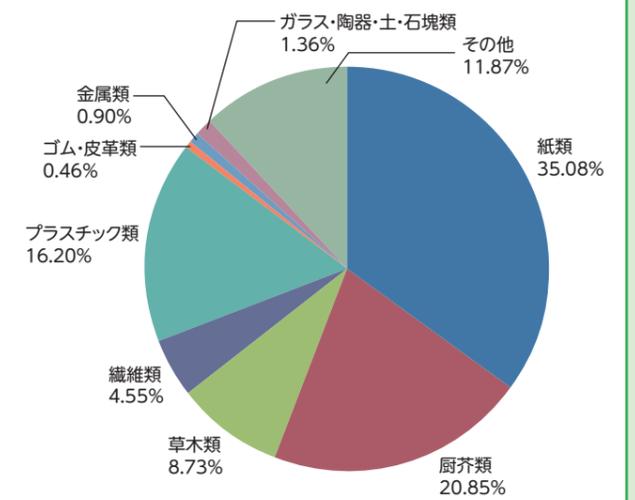


単位: 千トン

年度	平成20年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
焼却量	553	428	421	413	402	393	377	371	371	366	359
埋立量	107	62	60	62	48	41	48	49	46	46	46

※平成23年度以降の埋立量は焼却飛灰(保管)分を除く

焼却ごみの内訳※(平成30年度)



※処理センターで焼却するごみのサンプルを採取したままの状態にて組成を分析した結果による(湿ベース)。

- 焼却施設 ①浮島処理センター(処理能力900t/24h) ②堤根処理センター(処理能力600t/24h) ③橋処理センター(休止・建設中) ④王禅寺処理センター(処理能力450t/24h)
- 生活環境事業所 ⑤川崎生活環境事業所(川崎市塩浜4-11-9) ⑥中原生活環境事業所(中原区中丸子155-1) ⑦宮前生活環境事業所(宮前区宮崎172) ⑧多摩生活環境事業所(多摩区枳形1-14-1)
- 資源化処理施設 ⑨南部リサイクルセンター(空き缶・ペットボトル・空きびん) ⑩浮島処理センター粗大ごみ処理施設(粗大ごみ・小物金属) ⑪浮島処理センター資源化処理施設(ミックスペーパー・プラスチック製容器包装) ⑫王禅寺処理センター資源化処理施設(空き缶・ペットボトル・空きびん・粗大ごみ・小物金属)
- 廃棄物中継施設 ⑬加瀬クリーンセンター(処理能力300t/5h)
- 動物死体処理施設 ⑭浮島処理センター動物死体処理施設(犬及び猫等)
- 埋立処分施設 ⑮浮島2期廃棄物埋立処分場(埋立容量2,673,500m³)
- 余熱利用市民施設 ⑯堤根余熱利用市民施設(コネッティー堤根) ⑰王禅寺余熱利用市民施設(コネッティー王禅寺)
- 普及啓発施設 ⑱橋リサイクルコミュニティセンター ⑲かわさきエコ暮らし未来館 ⑳王禅寺エコ暮らし環境館

~川崎市ごみ分別アプリ~

資源物とごみの分別品目の多様化に伴い、若年層をはじめ幅広い世代の方々により分かりやすく分別方法をお伝えするため、スマートフォンアプリの配信をしています。



ごみ処理にかかる経費（平成29年度実績）

廃棄物政策担当

区分	収集・運搬に係る経費 (千円)	処理・処分に係る経費 (千円)	管理に係る経費 (千円)	経費合計 (千円)	処理量 (トン)	1トンあたりの経費 (円)
普通ごみ	5,784,392	3,866,196	293,993	9,944,581	241,060	41,254
粗大ごみ	318,491	397,318	78,799	794,609	9,728	81,683
資源物	2,148,675	556,125	96,077	2,800,877	50,490	55,474
合計*	8,251,558	4,819,639	468,869	13,540,067	301,278	44,942

※合計行については四捨五入の関係で一致しません。

1年間の経費	13,540百万円
1トンあたりの経費	44,942円
1世帯あたりの経費	18,898円
1人あたりの経費	9,005円

世帯数（平成29年10月1日現在）	716,470世帯
人口（平成29年10月1日現在）	1,503,690人

ごみの減量・リサイクルの推進に向けた取組

ごみの適正排出・分別の徹底に向けた各種広報

◆資源物とごみの分け方・出し方の作製

「資源物とごみの分け方・出し方」の記載内容を充実するなど、市民にとって、より分かりやすい内容に改訂しています。また、外国人市民向けに7か国語版を作製しているほか、主に若年層向けに「川崎市ごみ分別アプリ」を配信するなど普及広報の充実を図っています。

◆各種イベントにおける普及啓発

かわさき市民祭りや区民祭などのイベントに参加し、3R推進キャラクター「かわるん」を活用した広報を実施するとともに、タペストリー展示やリーフレットの配布等により、資源物とごみの分別ルールと排出マナーの徹底及び3Rの普及啓発を図っています。



CC等々力
エコ暮らしカフェ



市民祭り



九都県市合同キャンペーン

◆3R推進デー事業

広く市民に3Rと分別排出を普及・広報するため、原則として毎月3日にごみ集積所での排出指導や駅前、スーパー店頭等での啓発キャンペーンを実施しています。



3R推進デーの様子

◆ごみ相談窓口の開設

市民にとって身近な場所である区役所において、毎月第4土曜日の午前9時から11時（幸区役所は第2、第4土曜日の午前9時から12時）の間にごみ相談窓口を設置し、資源物とごみに関する相談や古着類・廃蛍光管の受け取り（大師・田島支所以外）などを実施しています。

※川崎市については大師・田島支所を実施しています。

（大師支所：第4金曜日の午前9時から11時まで、田島支所：第3金曜日の午前9時から11時まで）



ごみ相談窓口

環境教育・環境学習の推進

◆社会科副読本「くらしとごみ」の発行

主に小学校4年生を対象とした学習教材として、川崎市立小学校社会科教育研究会の先生方の編集協力を得て、昭和52年から毎年発行し、市内の小中学校等に配布しています。

【平成30年度実績】 発行部数
「くらしとごみ」 126校 14,000部
「指導用引」 126校 700部



社会科副読本「くらしとごみ」

◆出前ごみスクール、ふれあい出張講座

生活環境事業所職員が、資源物やごみの適正排出や3Rの推進などについて説明を行う出前講座として、主に小学生を対象とした「出前ごみスクール」と町内会・自治会等を対象とした「ふれあい出張講座」を開催しています。

【平成30年度実績】 「出前ごみスクール」 142回
「ふれあい出張講座」 113回



出前ごみスクール

◆3R推進講演会の開催

3Rの推進に向けた意識啓発及び学習機会の場として、市民・廃棄物減量指導員・事業者等を対象とした「3R推進講演会」を毎年開催しています。平成30年度は「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」をテーマに講演を行いました。



3R推進講演会

◆生ごみリサイクル講習会の開催

家庭から排出される生ごみの発生抑制や減量・リサイクルを推進するため、家庭でできる生ごみリサイクルの手法や、できた生成物の効用などについての講習会を区役所等で開催しています。

【平成30年度実績】 1回



生ごみリサイクル講習会

◆地球に優しいエコ・クッキング講座の開催

環境に配慮した食生活の大切さを知り、無駄のない食材や水の使い方などを学ぶ講座を、主に学校PTAを対象に、東京ガス株式会社川崎支店と協働して開催しています。

【平成30年度実績】 3回



地球に優しいエコ・クッキング講座

まちの美化推進

◆散乱防止重点区域の指定

「川崎市飲料容器等の散乱防止に関する条例（ポイ捨て禁止条例）」の対象は市内全域ですが、特に散乱を防止する必要がある区域を「散乱防止重点区域」に指定して指導員によるパトロールを実施しています。

また、平成30年3月16日から、川崎駅周辺の重点区域を拡大指定しました。

【散乱防止重点区域】 川崎駅周辺、新川崎・鹿島田駅周辺、武蔵小杉駅周辺、武蔵溝ノ口駅周辺、鷺沼駅周辺、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺、新百合ヶ丘駅周辺

◆ポイ捨て禁止啓発キャンペーンの実施

「ポイ捨て禁止条例」に基づく地域の環境美化の推進を図ることを目的として、市政だよりや市ホームページへの掲載、ポスターの掲示など各種広報媒体を利用した広報活動を展開するとともに、毎月、主要駅周辺地域において路上喫煙の防止と併せた統一キャンペーン活動を行うなど、美化意識向上のための普及啓発活動を実施しています。

【平成30年度実績】

平成30年5月30日 ごみゼロ、ポイ捨て禁止及び路上喫煙防止啓発キャンペーン
（「ごみゼロの日」にちなんで実施）
ポイ捨て禁止及び路上喫煙防止啓発キャンペーン
平成30年9月30日 （「環境衛生週間」行事の一つとして市内統一美化活動と連動して実施）
※9月30日は荒天のため中止、中野島駅、新百合ヶ丘駅は9月28日に実施。



ポイ捨て禁止及び路上喫煙防止啓発キャンペーン

◆不法投棄防止対策

廃棄物の不法投棄は臨海部を中心に発生しており、その内容は廃家電製品をはじめ多様化しています。今後も不法投棄の未然防止対策を実施します。

- ◎廃棄物不法投棄・監視指導員の設置
- ◎市内全域の不法投棄物の撤去及び再発防止
- ◎川崎市廃棄物不法投棄等防止連絡協議会との連携
- ◎廃棄物不法投棄監視装置等による監視の継続実施、巡回パトロールの実施
- ◎市内法人及び個人タクシー事業者による不法投棄に関する情報提供の協力要請
- ◎その他

◆**廃棄物減量指導員制度**

廃棄物減量指導員は、町内会、自治会等の住民組織団体から推薦を受け、市長が委嘱し、市と市民のパイプ役として地域で幅広く活動しているボランティアリーダーです。廃棄物減量指導員は「ごみ減量の普及啓発」、「リサイクル活動実践指導」、「排出方法順守指導」などの活動を通して、ごみの減量・リサイクルの推進に貢献していただいております。566団体から推薦を受けた1,851名が活動しています。(平成31年4月現在)



第13期廃棄物減量指導員委嘱式の様子

◆**「ごみゼロカフェ」の開催**

ごみの減量化・資源化に係る市民参加を推進するため、様々な年代の市民や事業者など多様な主体がごみ減量について意見交換する「ごみゼロカフェ」を開催しています。

平成30年度は、「親子で資源化処理施設を見学 ごみの未来を考えよう」「事業系食品ロス対策」「カワサキのミライの環境を考えよう」をテーマに3か所合計80人の市民がごみ減量のアイデアを出し合いました。

令和元年度も市内3か所で「プラスチック問題」や「食品ロス対策」などをテーマに開催します。

◆**インクカートリッジ里帰りプロジェクト**

家庭から排出される使用済みインクカートリッジの回収を行う「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」を全市で展開しています。区役所、支所、出張所など市内公共施設に回収箱を設置することで、資源の有効利用を促進し、循環型社会の形成に向けた取組を進めています。



インクカートリッジ回収箱

◆**適正包装の推進**

家庭から排出されるごみの中には、紙類やプラスチック類が多く含まれています。市では過剰包装の自粛及びレジ袋削減に向けた取組への協力をデパート、スーパーマーケット、商店街等に依頼し、紙類やプラスチック類のごみ削減を推進しています。

◆**食べきり協力店の紹介**

食べきれないサイズの小盛メニューなどの提供や、「おいしく残さず食べること」を利用者に呼び掛け、食べ残しを減らす取組を実施している店舗を登録し、ホームページ等で紹介しています。

【登録店舗数】 204店舗(平成31年3月末)

◆**フードドライブの実施**

各家庭で使いきれない未利用食品を集め、フードバンク団体等を通じて食料を必要としている世帯等へ届けています。

【回収場所】 環境局減量推進課、ヨネツティー王禅寺(令和元年7月現在)

◆**資源集団回収推進事業(新聞紙・雑誌・段ボールなどの回収)**

ごみの減量とリサイクル促進のため、資源集団回収を実施する町内会等の登録団体に対し回収量1kgあたり3円の奨励金、登録業者に対し回収量1kgあたり1円の報償金をそれぞれ交付しています。また、資源集団回収活動の拡大や未実施地域への実施要請等の普及啓発活動も実施しています。

【平成30年回収実績】 38,642t

◆**家庭用生ごみ処理機等の購入費助成**

家庭から排出される生ごみの減量・リサイクルを推進するため、生ごみ処理機や生ごみコンポスト化容器を購入した世帯を対象に購入金額の2分の1(限度額20,000円)の助成を行っています。

【平成30年度助成基数】	電動生ごみ処理機等	145基
	生ごみコンポスト化容器	16基
	密閉容器等	10基



電動生ごみ処理機



コンポスト化容器 密閉容器

◆**生ごみリサイクルリーダーの派遣・相談**

家庭での継続的な生ごみリサイクルを推進するため、生ごみリサイクルの活動を長く経験し、知識を有している方を川崎市生ごみリサイクルリーダーとして認定し、相談者の家庭などにリーダーを派遣し実地指導をするほか、地域の団体等の要請に基づき講習会の講師等も行っています。

【平成30年度派遣等件数】 65件(延べ136人で2,049人に対応)



生ごみリサイクルリーダーによる相談会

◆**生ごみリサイクルの活動費助成**

生ごみの減量と資源の地域循環を推進するため、平成22年度から家庭で発生した生ごみを堆肥化し、堆肥を有効活用する市民団体の活動に対し、生ごみリサイクル活動費用の一部(限度額100,000円)の助成を行っています。

【平成30年度助成団体数】 4団体

◆**古着類、牛乳パック、廃蛍光管の拠点回収**

市民の皆さんによるリサイクル活動を促進するため、拠点回収を実施しています。古着類は各生活環境事業所や市民祭り、区民祭等のイベントで、牛乳パックは各生活環境事業所や区役所等で、廃蛍光管は各生活環境事業所で回収しています。

【平成30年度回収実績】 古着類 128,462kg 牛乳パック 1,065kg 廃蛍光管 386kg(2,674本)

◆**小型家電の拠点回収**

使用済小型電子機器等に含まれる、貴金属やレアメタル等の資源の有効利用を目的として区役所、生活環境事業所等、市内公共施設26か所に小型家電回収ボックスを設置し、拠点回収を実施しています。また、市民祭りや区民祭等のイベントにおいても小型家電の回収を実施しています。

【平成30年度回収実績】 8,787kg



回収ボックス

◆**リサイクル施設(リサイクルコミュニティセンター、リサイクルビレッジ)の運営**

廃棄物のリサイクル等に関する情報の提供や市民による自主的活動への支援等、リサイクル活動の拠点となる橋リサイクルコミュニティセンターを運営しています。

また、同センター及びリサイクルビレッジ堤根においては、市民からの申し出により再利用できる粗大ごみ(リサイクル家具類)を抽選の上、無償提供し再利用を促進しています。

なお、リサイクルビレッジ堤根については川崎生活環境事業所の移転に伴い、展示場所を平成31年4月1日から橋リサイクルコミュニティセンターへ変更しました。

【橋リサイクルコミュニティセンターの主な事業】

- リサイクル家具等の展示・提供
- リサイクル講座・教室の開催

【平成30年度実績】

橋リサイクルコミュニティセンター・リサイクルビレッジ堤根 再利用品展示総数 720点



リサイクル家具等の展示

◆**多量排出事業者への減量化・資源化にむけた指導等**

ごみを多量に排出する多量排出事業者(日量100kg以上排出)に対し、減量等計画書の提出、廃棄物管理責任者の選任、廃棄物管理票の使用を義務付けています。また、準多量排出事業者(日量30kg以上100kg未満排出)にも減量等計画書の提出を求め、事業系ごみの減量化・資源化に努めるよう指導を行っています。

川崎市のごみ処理事業の沿革

年号・西暦・人口	取組事項	この頃の川崎市
大正13(1924) 48,394人	清掃監視業務開始	川崎町、御幸村、大師町の合併により川崎市誕生
昭和11(1936)	ごみ焼却処理開始 大島ごみ焼却場竣工(市で初の焼却場)	市内の各学校に二宮尊徳(金次郎)の銅像が建設されはじめる。
昭和13(1938) 234,542人	市でのごみ収集開始	本庁舎竣工
昭和30(1955) 445,520人	日本初の自動車によるごみ収集開始	第10回国民体育大会開催
昭和43(1968)	粗大ごみ収集開始	東名高速道路川崎インターチェンジ開設
昭和44(1969)	全市で毎日収集(週6日)を実施	市電の運行廃止
昭和52(1977) 1,032,852人	空き缶分別収集試行開始	リエカ市(クロアチア)と姉妹都市となる。
昭和59(1984)	使用済み乾電池分別収集開始	市制60年を記念して「好きですかわさき愛の街」を制作
昭和60(1985)	ごみ収集車のオルゴール曲を「好きですかわさき愛の街」に変更	宮前・麻生文化センターオープン
平成2(1990) 1,173,603人	ごみ非常事態宣言	ヨネティー王禅寺オープン
平成3(1991)	空きびん分別収集試行開始 分別収集推進委員制度創設	リサイクルビレッジ堤根、橘、王禅寺オープン
平成6(1994) 1,202,069人	廃棄物減量指導員制度発足 ポイ捨て禁止条例制定	清掃局が生活環境局に変更
平成7(1995)	日本初のごみの鉄道輸送開始	川崎駅前タワー・リパークが完成
平成10(1998)	南部リサイクルセンター竣工	川崎河港水門が国の有形文化財登録
平成11(1999)	ペットボトルの分別収集開始(川崎・幸・中原区) 「資源物の日」を全市域に拡大	岡本太郎美術館オープン
平成12(2000)	ふれあい収集開始	K2タウンキャンパスオープン
平成15(2003)	ペットボトル分別収集全市実施	全市立小学校にわくわくプラザ開設
平成16(2004) 1,306,021人	粗大ごみ有料化	ミュージア川崎シンフォニーホール開館 川崎フロンターレJ1昇格、J2優勝
平成17(2005)	かわさきチャレンジ・3R(川崎市一般廃棄物処理基本計画)策定	路上喫煙の防止に関する条例制定
平成19(2007)	普通ごみ収集を週4回から週3回に変更	第3回アメリカンフットボールワールドカップ 2007川崎大会開催
平成23(2011) 1,430,773人	ミックスペーパー分別収集全市実施 プラスチック製容器包装分別収集開始(川崎・幸・中原区)	かわさきエコ暮らし未来館開館 藤子・F・不二雄ミュージアム開館
平成25(2013)	「かわるん」誕生 プラスチック製容器包装分別収集全市実施 普通ごみ収集を週3回から2回に変更 小型家電の拠点回収開始	川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)開設 中原図書館リニューアルオープン
平成27(2015)	3処理センター体制開始	等々力陸上競技場メインスタンド供用開始 川崎富士見球技場リニューアル
平成28(2016)	ごみ減量 未来へつなげるエコ暮らしプラン (川崎市一般廃棄物処理基本計画)策定 川崎市ごみ分別アプリ配信開始	市役所本庁舎建て替えに伴い閉鎖 王禅寺エコ暮らし環境館開館
平成31(2019)	生活環境事業所を5か所から4か所に変更	川崎フロンターレJ1 2年連続優勝



手車による収集の様子



スクレードラム車



バックドラム車



ごみ非常事態宣言
ポスター



収集体制変更
ポスター



ごみ減量 未来へつなげる
エコ暮らしプラン

●ごみ・リサイクルに関するホームページ

市ホームページ (<http://www.city.kawasaki.jp>) から

●粗大ごみの収集申し込み

電話：044-930-5300 (粗大ごみ受付センター)

インターネット：ネット窓口かわさき

市ホームページ (<http://www.city.kawasaki.jp>) から

FAX：044-930-5310 【聴覚等に障害のある方専用】